

## 地域密着型インターンシップ最終報告

特定非営利活動法人 素材広場

2011年10月7日

8期生 ニックネーム：ゆっこ

### 【研修目的・課題】

- ・学校で、観光について学んでおり、地域密着型の観光についてや地産地消について興味があった。
- ・学校のゼミ活動の内容が福島支援である。

〈内容〉

- ・福島県の現状を知り、福島県復興の支援策を考える。
- ・原子力発電所の事故により福島県の農業が被っている風評被害に対する支援活動。
- ・被災地から遠く離れた静岡県での支援方法を探すため。
- ・継続的支援方法を検討していく。

### 【研修活動内容】

～現地研修～

- ① 東山温泉盆踊の手伝い
- ② 山際食彩工房 「こづゆ」サンプル作り
- ③ 大豆畑の雑草抜き
- ④ 新潟県古町での物品販売
- ⑤ 会津復興キャンペーン参加施設のHPチェック
- ⑥ いわき市視察
- ⑦ 福島県のツアー作り
- ⑧ 地元静岡で販売する物品選び・発注
- ⑨ 仙台シンポジウム見学

～通信研修～

- ① 体験型ツアー参加
- ② 福島県のツアー作り(修正)
- ③ 物販時のパネル・チラシ作り
- ④ 福島県産商品の販売

### ① 東山温泉盆踊の手伝い

→ふるまい酒配り・お菓子・ビール配り・片づけ(清掃)

東山温泉の盆踊では、東山温泉のハッピーを着用し、会津の地酒をお祭りにきた方々に配って歩き、大熊町の人たちが東山温泉に避難してきて居るということで、大熊町の盆踊りも合同で行いました。大熊町の子供たちが、クッキーを作ってくれたので、それも一緒に盆踊りをしている方々に配りました。

会津・大熊町の方々も震災がきっかけで交流という形になっていたが、会津の人は会津の盆踊を大熊町の人へ、大熊町の人は大熊町の盆踊を会津の人へ教えていて、とても賑やかで楽しそうでした。



▲ふるまい酒



▲盆踊風景



▲着用したハッピー

### ② 山際食彩工房

→「こづゆ」サンプル品作り

山際食彩工房では、会津で有名な郷土料理「こづゆ」のサンプル品作りを行った。

里芋・筍・人参・銀杏・しいたけ・ほたて・糸こんにゃく・木耳・豆麩をパックに入れ、真空包装機にかけ、真空パック詰めをしました。

土壌菌が何から発生するかのサンプルだったので、透明なパックと銀色の紫外線防止のパックを5袋ずつ詰め、里芋を入れない物と、ホタテを入れない物を作った。

「こづゆ」は、福島県会津地方の郷土料理であり、食材は乾物が中心である。今回は、乾物ではなく、普通の野菜がメインだったが、「こづゆ」を福島県産の野菜で作りを真空パックにして販売することにより、少しでも風評被害の野菜を使用し、より沢山の消費者に食べてもらうことが出来れば良いと思う。

山際食彩工房さんで、地域活性化のコーディネート活動。地産地消の料理アイディア、農家レストラン等のメニュー開発を行っている。子供に福島県産の材料を使った料理方法を教えるということもしていて、テレビのコンテストにも優勝したというお話も伺いました。

今回の研修中で頂いた物の中だと、「味噌かんぷら」が私は好きでした。「味噌かんぷら」も会津地方の料理であり、「かんぷら」とは「じゃがいも」のことだそうです。他にも、きゅうりのワサビ、カラシ漬けや、ラー油味の「カップラー」も食べましたが、初めて食べた味で同じ、きゅうりなのにそれぞれ違い、使い道、食べ方はアイディアと地域によって様々なのだと実感しました。



▲味噌かんぷら

### ③ 大豆畑の雑草抜き

→南相馬の農家さんの大豆畑の雑草抜き



▲大豆畑作業風景

南相馬の原発の被害により立入禁止区域となってしまった大豆農家さんの大豆を、会津に持ってきて、育てている大豆畑の雑草抜きを行った。

有機栽培にこだわって大事にされている大豆で、大豆畑はとても広く、雑草も大豆より大きくなっていて、抜くのは大変でした。やはり同じ畑内でも場所により、偏りがある様で大豆の育ち具合も様々でした。

#### ④ 新潟物産販売

→新潟県古町にて、福島県産の物産販売を行った。

〈販売物品〉

- ・アクアイズ
- ・バンダイポップ
- ・さるなしジュース
- ・若桃の甘露煮
- ・桑うどん
- ・川俣シャモ地鶏カレー
- ・ブルーベリー・さるなしの塩 他



▲販売商品



▲販売商品ドリンク

販売では若桃の甘露煮、バンダイポップ、さるなしジュースがよく売れました。

福島県産ということでやはり、放射能を気にする方も多く、福島県産だから買うのをやめた方もいました。

そして、やはり子ども連れの方は私が販売したときには居ませんでした。

震災から5カ月経ちましたが、初めの頃のように買ってくれる人もだんだん減ってきているようでした。

もっと、放射線量についての説明をしたりするなど販売方法を工夫し、安心・安全だということを知って貰いたいです。

#### ⑤ 会津復興キャンペーン参加企画施設のHPチェック

→会津復興キャンペーンの宿泊プラン画像・キーワードの確認。

81件の参加施設のホームページ・じゃらん・楽天・るぶのサイトにプランが搭載されているか。また、キャンペーンのプラン名に「会津復興」と入っているか・キャンペーンのロゴ画像があっているかの確認を行った。



⑥ いわき市視察

→津波の被害にあった、沿岸部視察。



▲アクアマリンふくしま前

福島県の沿岸部の現状を知るため、津波被害に遭ったいわき市を視察。今回は福島県の観光プランをたてるということもあり、7月の中旬に再開した「アクアマリンふくしま」に行った。いわき市に行くまでの、東北自動車道もほとんどが修復されていたが、道がぼこぼこしており、ガードレールが壊れていました。

「アクアマリンふくしま」の周辺も信号機は壊れ、標識は歪み、瓦礫

が積まれていた。通行止めになっていた道路も多く、少し危険だと感じました。

「アクアマリンふくしま」のスタッフの方のお話を聞く機会もあり、水槽にいた殆どの生き物は死んでしまい、営業再開までにたくさんの人に助けられたと話してくれました。

今居る生き物も一時他の水族館に預かってもらっていたり、寄付してもらった魚が殆どだそうです。

震災後によく、水族館から見た津波の映像を目にしていたのですが、実際自分が行ってみると、目の前は普段通りの海で、水族館自体も津波の影響を受けたとはわからないくらい綺麗になっていたのので、津波の影響が信じられませんでした。

その後、四倉に移動し、四倉漁港に行きました。



▲津波の被害に遭われた家



▲崩れた道路・曲がった標識

道中、地震と津波の影響で、崩れてしまった家や道路がたくさんありました。

私は、映像でしか見たことがありませんでしたが実際見てみて、建物や道路、車や船などが、見たこともないほどの形になっていて、津波は本当に恐ろしいものなのだと感じました。

四倉漁港の道の駅では、半壊した建物でも営業していました。

窓はなく、一部崩れていましたが大漁旗や板を用いて仮営業として頑張っていました。

漁港はまだ再開していませんでしたが、そのお店が営業していたことによってとても賑やかでした。

建て直している家もあり、元通りとまではいきませんが早く漁港も復活し、もっとたくさんの方で賑わってほしいです。

#### ⑦ 福島県のツアー作り

→福島県内のツアー決め・下見

風評被害に苦しんでいる福島県に人を集客し、実際に自分たちが見て・食べて・感じて貰うツアーを制作。福島県全域が原発の被害があるわけではなく、安全だということを解って貰うのが目的です。

ツアーを通して、食べて支援、風評被害に苦しむ福島県の人たちや落ち込んでしまった観光業の支援出来たらと思います。

〈下見先〉

鶴ヶ城・飯盛山・御薬円・武家屋敷・野口英世青春記念館・大内宿・七日町・  
アクアマリンふくしま・



▲鶴ヶ城



▲大内宿



▲飯盛山

〈ツアースケジュール〉

＊ ＊ 1 日 目 ＊ ＊

午前移動

14 : 00 会津若松駅  
14 : 30 手作り体験広場 番匠  
15 : 40 会津武家屋敷  
16 : 50 ホテル

＊ ＊ 2 日 目 ＊ ＊

9 : 40 ホテル出発  
9 : 50 会津若松駅  
10 : 55 湯野上温泉駅  
11 : 10 大内宿  
12 : 40 湯野上温泉駅  
13 : 42 会津若松駅  
14 : 00 がぶりガーデン 星果樹園  
15 : 15 がぶりガーデン 本舗  
16 : 30 ホテル

＊ ＊ 3 日 目 ＊ ＊

9 : 00 ホテル出発  
9 : 45 鶴ヶ城  
11 : 00 飯盛山  
↓各自昼食  
13 : 00 会津若松駅  
午後帰宅

〈概要〉

- ・大学生向けのプラン。
- ・被災地に実際に行くことにより、誤解のある福島県の現状把握。
- ・自由時間に行動先を選択制にして好きな所に行く。(行き先のリスト制作)
- ・課題を与えて、現地の人へのヒアリング調査。
- ・ブログ・ツイッター等書き込み、広めて貰う。

⑧ 静岡県で物産販売する商品選び

→リストチェック・発注

商品リストから、販売する商品を選び発注をかけた。

〈発注リスト〉

・さるなしドリンク(こぶしの里)	120本
・バンダイポップ(素材広場)	216本
・リンゴ酢(田酢店)	48本
・若桃の甘露煮(あぶくま食品)	72本
・川俣シャモ地鶏カレー(川俣農業振興公社)	35箱
・川俣さわやかトマトカレー(川俣農業振興公社)	35箱
・ソフトクリーミーヨーグルト プレーン(会津中央乳業)	150本
・ソフトクリーミーヨーグルト イチゴ(会津中央乳業)	150本
・会津のべこの乳食べるヨーグルト(会津中央乳業)	72個

〈販売方法〉

・セット販売

→さるなしドリンク+バンダイポップ

ソフトクリーミーヨーグルト プレーン+イチゴ

若桃の甘露煮+会津のべこの乳食べるヨーグルト

川俣カレー2種セット

- ・販売場所を地図を利用して説明。
- ・商品説明(特徴・自分たちが福島に来ての感想等記入)
- ・パネルを利用し看板製作。

⑨ 仙台シンポジウム

→仙台で行われたシンポジウムに参加

東日本大震災の時の被災者の話、復興についての話など貴重なお話を聞くことが出来ました。震災の時のリアルな体験談、津波の被害の話等、様々な話を聞くことが出来ましたが、私が一番凄と思った話が、震災直後の学生の行動でした。自分が出来る事を見つけ、積極的に行動していて、もし自分が同じ状況だったら出来ないと思いました。今後の復興の話など、沢山の人の意見を聞くこともでき、シンポジウムに参加することも初めてだったのでとても良い体験ができました。



### 【気づき・感想】

今回、地元を離れ福島県会津に来ましたが思っていた福島県とは違い、会津は震災の影響はほとんどなく、風評被害の方がひどかったです。

私も福島県に来る前までは、福島県全体的に放射能が危険だと思っていましたが、会津で生活をしたら、毎日農家さんの野菜を美味しく食べ放射線のことは気にならなくなりました。

なので、もっと沢山の人が福島県に観光に来てもらい、安全であるということを知って貰いたいです。

### 【通信研修】

#### ① 体験型ツアー参加

→見て・聞いて・触って・体験のツアーに参加

#### \*ツアー内容\*

ツアー名) 富士宮市柚野地域文化体験

日程) 9:00 大学出発

10:30 ソバ打ち体験

13:00 川登り

16:00 まとめ

17:00 帰宅

このツアーでは、ソバ打ち、川登、魚採り、魚捌きを体験した。

地域のおばあさん達に、ソバ打ちを教えてもらい、道端に生えていそうな草も天ぷらで頂きました。

そばを打つには、結構力も必要で、簡単そうに見えてとても難しかったです。



▲そば作り中



▲手作りそば・天ぷら

魚とり体験では、素手で泳いでいる魚と獲りました。  
魚は岩の陰に隠れてしまい探すのも難しく、逃げるのも速く、ヌルヌルしていたのでなかなか捕まえることができませんでした。

獲った魚は自分たちで捌き、まだ生きている魚を切り、内臓を取り出すという作業は私にとってとても辛かったです。日常生活において、魚は捌いた状態でスーパーに売っているため、自分で捌いたことはなく、魚は好きですが、生きている状態を知ってしまうととても複雑な気持ちでした。

今回の体験で、命の大切さや、いつも当たり前のように食べているものがどのように作られているか学ぶことができました。実際に、自分の目で見て、耳で聞いて、感じることはとても大切だと改めて実感することができました。



▲魚獲り



▲魚捌き



▲焼き魚

## ② 福島県ツアー作り(修正)

→福島での研修中に作ったツアー修正

ツアー修正では、福島研修中に作ったツアーの修正を行った。

ターゲットは大学生で、ツアー目的は震災や風評被害の現状を知るためと設定しましたが、具体的にどのようなコースにしたら、現状を知ることが出来るか悩んでしまい、ツアーを完成させることができませんでした。

今回の研修中では完成させる事ができませんでした。今後は学校のゼミ活動である福島支援プロジェクトとして継続してツアーを考え、完成させたいです。

## ③ 物販時のパネル・チラシ作り・商品袋詰め

→静岡県で行う福島県産商品販売のためのパネル・チラシ作りと商品の袋詰め

どのようにしたら、風評被害で売れにくくなってしまった商品を買ってもらう事が出来るか考え、パネルとチラシを作りました。

\*チラシ\*

- ・福島県の地図を使い、商品の製造場所を明確にした
- ・自分が福島に行つての感想や福島の状態を記入
- ・商品説明と食べ方のレシピ

▼チラシ



\*パネル\*

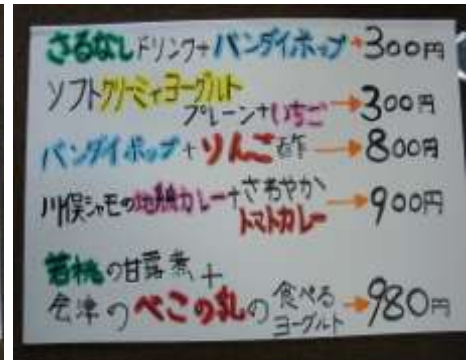
- ・商品説明
- ・値段
- ・商品の写真を貼る



▲作業風景



▲商品説明



▲料金表

\*セット販売用の袋詰め\*

〈セット販売〉

- ・さるなしドリンク+バンダイポップ
- ・バンダイポップ+リンゴ酢
- ・ソフトクリーミーヨーグルト プレーン+イチゴ
- ・若桃の甘露煮+会津のべこの乳食べるヨーグルト
- ・川俣カレー2種セット

上記のようなセットを一つの袋に入れて販売しやすくした。  
そこに、商品説明と食べ方のレシピを書いた物を一緒に詰めた。



▲りんご酢セット

#### ④ 福島県産商品の物販

→福島での活動時に選んだ商品の販売

富士青年会議所のイベントで福島県産の商品販売を行いました。

②で準備したパネルを飾り、チラシを配りながら販売をしました。

珍しがって購入してくれた人が多く、親子、お年寄りから子供まで、沢山の人が買って行ってくれ、おいしいからと言って何回も買いに来てくれた人もいました。

しかし、放射能の心配をする方もいて、「飲むヨーグルトの中にはセシウムが入っているから売らない方がいい。セシウムは体の中に入ると体内をぐるぐる回ってなかなか体外に出ないから、今すぐ体に影響するわけではないけど、将来に影響がある。特に子供には飲ませない方がいい。」と、言ってきたお客さんもいました。

商品は全て完売しましたが、やはりセシウムなどを不安に思っている方も多いので、売っている商品はちゃんと安心安全であるという事を伝えるためにどうすればいいかを、今後もっと検討していきたいです。



▲販売風景①



▲販売風景②

#### 【気づき・感想】

通信研修は、地元である静岡県で行いました。

体験型ツアーでは、体験することがどれだけ大切で印象に残るか実感でき今後ツアーなどを作る時は体験できるツアーを考えたいと思いました。そして、他の体験型ツアーにも参加してみたいです。

物販を行うにあたって、沢山の準備といろいろな人の協力が必要で、売り方によっても売れ方が違うという発見もありました。今回の販売では、少し時間が足りなかったなので、次回販売する時は準備期間を多めに取りたいです。

そして、ニュースなどで放射線の影響について沢山報道されていけばもっと風評被害も増えてしまうと思います。今回の活動を通して、福島県の人々の復興に対する想いも強く、沢山の苦勞、不安があるという事も知れたので、これからも継続的に支援していきたいです。今後の目標としては、学校の学祭で物販を行うことと、ツアーの完成です。完成出来たら実際にモニターツアーとしてツアーを実行できたらいいと思います。

今回の研修では、初めて地元・実家を離れて生活し、毎日いろいろな人と関わり、話を聞き、自分の意見を言う機会も沢山ありました。自分達の活動が新聞に載ったり、販売時に沢山の人に説明をし、今まで苦手で避けてきたことが少しだけ出来るようになった気がします。今まで体験したことのないことが、たくさん出来たので今後この経験を生かしていきたいと思います。